

トモネット英語塾 週刊英語レポート講座



There is no royal road to geometry.

(先週は名古屋に行ってきましたので、イルミネーションを撮ってきました。年末ですね。)

著作権について

『トモネット英語塾、週刊英語レポート講座』（以下、本書と表記）は著作権法で保護されている著作物です。本書の使用に際しましては、以下の点にご注意ください。

1. 本書の著作権は、トモネット英語塾にあります。
2. トモネット英語塾の書面による事前許可なく、本書の一部または全部をあらゆるデータ累積手段（印刷物、電子ファイル、ビデオ、テープレコーダー等）により複製、流用および転載、転売することを禁じます。

使用者許諾誓約書

本契約は、本書を購入した個人・法人（以下、甲と称す）と、トモネット英語塾（以下、乙と称す）との間で合意した契約です。本書を甲が受け取り、パッケージを開封することにより甲はこの契約に同意したことになります。

第1条 本契約の目的

乙が著作権を有する本書に含まれる情報（ノウハウ等）を 本契約に基づき甲が独占的に使用する権利を有するものです。

第2条 禁止事項

本書に含まれる情報は、著作権によって保護されています。甲は本書から得た情報を、乙の書面による事前許可を得ずして出版・公演活動および電子メディアによる配信により一般公開することを禁じます。特に第三者に渡すことを厳しく禁じます。甲は、自らの事業、所属する会社および関連組織（販売店・代理店等）においてのみ本書に含まれる情報を使用できるものとします。

第3条 契約の解除

甲が本契約に違反したと乙が判断した場合は、乙は使用許諾契約書を解除できるものとします。

第4条 損害賠償

甲が本契約の第2条に違反した場合、本契約の解除に関わらず、甲は乙に対し、その違約金として、違反件数と販売価格を乗じたものの15倍の金額を支払うものとします。

第5条 責任の範囲

本書の情報の使用責任は甲にあり、この情報を使って損害が生じたとしても、乙は一切の責任を負いません。

「トモネット英語塾、週刊英語レポート」

著者(著作権者): 中西 智裕

■ はじめに

こんにちは、中西です。

11月30日(月)。

11月も今日で最後なんですね。

12月に入れば、あっという間の2009年です。今日の週刊英語レポートを読んで是非、あなたの英語学習、学習能力全般に役立ててくれたらと思います。

それでは、今週も元気よく行ってみましょー！！

というわけで、コラムに入る前に1つ面白い記事(ニュース)があったので、その紹介です。短い英文ですので、まずは予備知識なしで、読んで見て下さい。

ヘッドラインはこちら。

Yellow card after goalkeeper saves cat during match

一瞬、「何？」と思いますよね。

英文記事は次項になります。短いので、1, 2分で読んで見て下さい。

それでは、どうぞ！

<http://arbroath.blogspot.com/2009/11/yellow-card-after-goalkeeper-saves-cat.html>

Goalkeeper Ivan Banovic was booked after rescuing a pitch-invading cat during a top-flight match in Croatia.



Photo from [here](#).

Medjimurje Cakovec's Banovic picked up the wandering feline after it strayed on to the pitch 20 minutes into his team's match at Sibenik.

He placed it safely near a scoreboard but was then booked by the referee for leaving the pitch without permission.

Media reports said the official's actions annoyed fans, who barracked him for punishing Banovic's kind deed.

以上です。

こんなこともあるんですね。

補足説明しておきますと、まず、舞台となったのは、カズも在籍したことがあるクロアチアの1部リーグ。その試合中に、猫が迷い込んで来るハプニングがあったと、そういう記事(ニュース)です。

猫を観たゴールキーパーはさすがに、これはまずいだろうと思ったのか、試合中に猫を抱えて、会場の外へ逃がしてあげたところ、審判がこの選手に対してイエローカード

を掲げたという、何とも珍しい事件です。(試合中、無断でコートから出てはいけないルールです。)

猫を助けたゴールキーパーには、観客席からは拍手が。しかし、審判がイエローカードを出した瞬間に観客が物凄いブーキング(野次)を審判に飛ばします。

審判の立場上、難しいところですが、こういう記事は、思わずオツとなりますよね。

記事の下の方に動画がありますので、興味があれば、ご覧下さいませ。(ただし、英語ではなく、クロアチア語？です。)

こんな具合で、興味のある分野の英語を読む。日本の文化を英語で学ぶ、英語で英語を学ぶ、インターネットのトップ画面をアメリカ版のヤフーに設定しておいて、興味のあるものがあれば、5分程度読んでみる。

などなど、英語にいかにも自然に、楽しみながら接することができるか、です。

あなたの興味のある分野はどんなもの？

■本を読んだその後は・・・

週刊英語レポートを読んでいる方は成長する意識が強い、
英語学習意欲が高い人だと思うので

日頃からたぶん、たくさんの本を買って、
たくさん本を普段から読んでいることだと思う。

僕も山のように本を持っている。

健康学、睡眠学、スポーツ医学、脳科学、自己啓発、歴史、免疫学などなど、
ざっと本棚を見てみるとちょっとした図書館ができていて、自分でも驚いてしまう。

これは何かの分野に興味を持ったり、興味ある分野の本が出版されると
アマゾンでついつい買ってしまうのが原因。

しかも、「読む速度」よりも「買う速度」のほうが圧倒的に速い。

おまけにアマゾンは僕の興味をそそる本の情報を
メールでご丁寧にお知らせまでしてくれる。

結果、買い集めた本の山を前にその謎のノルマを達成すべく空き時間を見つけては、新しい本を読んでしまう。

というのは、今からちょうど一年くらい前のこと。

こんな読み方をしていると、

その時点で分かったつもりにはなっても内容はいつしか忘れ去ってしまう。

何十冊、何百冊という本を読んでもそれが自分の中でしっかりと落とし込めていなければ読んでもあまり意味はない。

読んでいる時間は投資ではなくそのまま浪費される。

基本的に人の記憶というのは、プラチナ塾生には、音声で話したけれど、

使わないものを自動的に忘れていくようにできている。

だから、大事な記憶や学んだ知識を忘れないようにするためには新しく学んだ内容を繰り返し、反復することで脳の長期記憶の器に移し替えないといけない。

要するに、「読後」に重要な部分を復習しなければせっかく読んだことも大半は失われてしまうこと。

本にしてもCDにしてもDVDにしてもせっかくインプットした情報が頭から抜けてしまっては全く意味がない。

学んだ情報を実際に行動に移し、それを長いスパン、1年、2年という時間をかけて、少しずつ自分のものにしていく。

だから何かを学び取りたい時は本を読みながら、専用の繰り返しポイントを復習できるノートを用意しておくといい。

僕の場合、こんな感じのノートが10冊ほどある。



中身はこんな感じ。

大体、一冊のノートに、100冊～150冊分くらいの情報と自分がやってみて効果があったことやその感想が書いてある。

毎朝、10分～15分程度、パラパラを開いて、記憶に定着させる。



そういう学びの姿勢でいれば、人生を変えてしまう、
一冊に出合える確率はグンと上がる。

学んだ知識を自分の記憶に意識的に留め、それを実践し、自分の言葉として外に出し、そこから自分の学びとし、人生を豊かにしていくサイクルを意識的に創り出す。

本当の宝物は、今この瞬間にあなたの目の前にあるとしたら？

もしくは、自分の書棚に眠っているとしたら？

■ Never?それとも Don't?

否定文としてお馴染みの Never と Don't。

以前にもここで触れたと思いますが、

先週末の映画「2012」でも結構、使われていたので、
詳しく説明しておこうと思います。

まずは、試しに以下の日本語を英語にして
パッパッと声に出して見て下さい。

状況は、あなたが学生時代にホームステイをしていた
家族が年末に日本に遊びに来る、そんなワンシーンです。

懐かしいなーという気持ちを胸に、あなたはこんな一言。

「空港に着いたら必ず電話してね。」

それでは、どうぞ！！

ヒントは、

「必ず」を Never で表現するのか、それとも
Don't で表現するのか、の違いです。

声に出したら次項へ進んで下さい。

それでは、どうぞ！

「空港に着いたら必ず電話してね。」

それでは、解説です。

今回、用意した英文はこの2つ。

Never forget to call me when you arrive in airport.

Don't forget to call me when you arrive in airport.

「～しては駄目、いけません」という否定の命令文では、

Don't よりも Never の方が禁止の意味、ニュアンスが強く込められていると思っている人は多いと思います。

確かに、I **didn't** say such a thing.

よりも、

I **never** said such a thing.

の方が「そんなことは絶対に言っていない！」

という意味での度合いは強いです。

never の使い方、考え方として覚えておくポイントは、never が、

過去、現在、未来のことを含んだ上で「決して～でない」ことを表現する

ので、例えば、

I've **never** been to Japan.

「日本には一度も行ったことがない。」

では、厳密には、(過去から現在に至るまで)、俺は日本に行っていないんだという意味ですね。(くどいですが。)

それから、友人と別れ際に言う表現として、

I'll **never** forget you.

「君のことは決して忘れない」

というのがありますが、

これは話し手の「意思」が**現在から未来までずっと忘れない**
という意味、そんな時間軸で使っているんですね。

要するに、I'll **never** forget you.という表現は、never を使うことによって、
これから先もずっと君のことは忘れないよ、というニュアンスを伝えることが
できるということです。

以上のことから、never というのは、

「現在のみ」に焦点を当てた冒頭の「～しては駄目、いけません」のように
命令文として使うことはできません。

例えば、「赤ちゃんが(今)寝ているから、音は立てないで！」を英文にすると、

Never make any noise.ではなく、

Don't make any noise. The baby is sleeping.

となるわけです。

冒頭の「空港に着いたら連絡してね。」という文も、
空港に着いたその時だけの行為なので、Never ではなく、

Don't forget to call me when you arrive in airport.

が正解です。

一見、Never forget to call me when you arrive in airport.

でもいけそうな気がしないわけでもないですが、

ニュアンスを理解した上でこれを訳すと、

「これから(過去～未来)(日本の)空港に来ることがあるだろうから、
その時は、必ず電話してね。」

という何だか違和感のある英文になります。

ちなみに、Don't forget to～.「忘れずに～してね」に対しての答え方は、

「I will.」

とついついやってしまいがちですが、

これは、「忘れるよ。」という意味になるので、

忘れない、つまり、I will not/won't.
と答えられるようにしておいて下さいね。

ややこしい部分は、頭で考えず、なるべくイメージで考えるようにして下さい。

それでは、また次回！

Don't miss it next report!!

■ 最後に

There is no royal road to geometry.

Euclid

「幾何学に通じる王道などあり得ない」

royal road「王道」

geometry「幾何学」

geom·etry /dʒiːmɛtri; NAmE ɑːm/ noun

1 [U] the branch of mathematics that deals with the measurements and relationships of lines, angles, surfaces and solids

2 [sing.] the measurements and relationships of lines, angles, etc. in a particular object or shape: *the geometry of a spider's web*

同じ意味として有名なのは、

There is no royal road to learning.

「学問に王道なし」ですね。

これは哲学者アリストテレスがアレキサンダー大王の
家庭教師として赴任したときの言葉です。

追伸

年末は、27日から一週間ほど九州に温泉旅行に行ってきます。

『トモネット英語塾』

塾長 中西 智裕